

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-12512

(43) 公開日 平成 8 年 (1996) 1 月 16 日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 N 59/16	A			
25/08				
// (A 0 1 N 59/16				
59: 26				
59: 06				

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平6-150997	(71) 出願人	000198477 石塚硝子株式会社 愛知県名古屋市昭和区高辻町11番15号
(22) 出願日	平成 6 年 (1994) 7 月 1 日	(72) 発明者	小林 紀男 愛知県春日井市岩成台 9 丁目 9 番地 10
		(72) 発明者	山本 幸一 愛知県名古屋市中村区横井 2 丁目 25 番地
		(72) 発明者	勝野 奈美 岐阜県可児市長坂 6 丁目 41 番地
		(74) 代理人	弁理士 名嶋 明郎 (外 2 名)

(54) 【発明の名称】 砂場用抗菌剤

(57) 【要約】

【目的】 公園等の砂場が雑菌で汚染されるのを的確に防止することができる砂場用抗菌剤を提供すること。

【構成】 P_2O_5 : 40~60モル%、 CaO 、 MgO 、 ZnO から選択される 1 種または 2 種以上 : 35~45モル%、 K_2O または Na_2O : 15モル%以下、 Al_2O_3 : 2~6モル%、 SiO_2 : 10モル%以下からなる組成の P_2O_5 系溶解性ガラスに重量%で 0.5~2%の Ag_2O を添加した銀含有溶解性ガラスからなる砂場用抗菌剤。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 P_2O_5 : 40～60モル％、 CaO 、 MgO 、 ZnO から選択される1種または2種以上 : 35～45モル％、 K_2O または Na_2O : 15モル％以下、 Al_2O_3 : 2～6モル％、 SiO_2 : 10モル％以下からなる組成の P_2O_5 系溶解性ガラスに重量％で0.5～2％の Ag_2O を添加した銀含有溶解性ガラスからなることを特徴とする砂場用抗菌剤。

【請求項2】 銀含有溶解性ガラスの表面にシリコンオイルが被覆されていることを特徴とする請求項1に記載の砂場用抗菌剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、公園等の砂場が雑菌で汚染されるのを的確に防止することができる砂場用抗菌剤に関するものである。

【0002】

【従来の技術】公園に設置されている砂場には、犬、猫等のペットが侵入して排泄物を残すため、大腸菌をはじめ大量の雑菌や回虫の卵が含まれていることが調査の結果判明している。このために雑菌が砂場で遊ぶ幼児の手指に付着して健康を害するおそれがある。また、ペットに寄生する回虫の卵は人体に入っても成虫にはならないものの、肝機能障害などを引き起こすおそれがある。そこで砂場の周囲に金網を張ってペットの侵入を防止することも検討されているが、砂場が利用しにくくなるという問題点があるうえ、猫等の侵入を完全に防止することは困難であった。

【0003】また、砂場に殺虫剤や殺菌剤を散布することも考えられるが、殺虫剤や殺菌剤が人体に影響を及ぼす危険性があるために実際に使用された例はなく、また屋外では揮発したり太陽光線等により分解されるため、殺虫剤や殺菌剤の効力が短期間で失われてしまうという問題点もあった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記のような従来の問題点を解決して、砂場内の大腸菌等の雑菌や回虫卵を減少させることができるとともにその効果を長期間にわたって維持することができ、更には生産性、保管性等にもすぐれた砂場用抗菌剤を提供することを目的として完成されたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するためになされた本発明の砂場用抗菌剤は、 P_2O_5 : 40～60モル％、 CaO 、 MgO 、 ZnO から選択される1種または2種以上 : 35～45モル％、 K_2O または Na_2O : 15モル％以下、 Al_2O_3 : 2～6モル％、 SiO_2 : 10モル％以下からなる組成の P_2O_5 系溶解性ガラスに重量％で0.5～2％の Ag_2O を添加した銀含有溶解性ガラスからなることを特徴とするものである。

【0006】ここで溶解性ガラスとは、制御された溶解

速度を持つようにガラスの物理的、化学的特性を考慮して組成を調整したガラスの総称であり、銀化合物を含有させた銀含有溶解性ガラスは水分との接触により数時間から数年間の任意の期間にわたって定められた一定速度で銀イオンを溶出させることができるものであり、銀の添加量としては溶解性ガラスに対して重量％で0.5～2％の Ag_2O が添加される。銀の添加量が0.5重量％より少ないと十分な抗菌作用を発揮することができず、2重量％より多いと不経済となるからである。

10 【0007】前記溶解性ガラスとしては所定の組成からなる P_2O_5 系のガラスを使用し、 P_2O_5 はモル％で40～60％の範囲のものとする。 P_2O_5 が40％より少ないとガラス化が困難となり、60％より多いと梅雨場や夏場の高温多湿時に吸湿固化して砂場に散布することが不適当となるうえに保管も困難となり、またpHが酸性化してしまうからである。 CaO 、 MgO 、 ZnO から選択される1種または2種以上はモル％で35～45％の範囲のものとする。35％より少ないと溶解速度が速くなって長期間にわたる溶解性が期待できなくなり、45％より多いとガラス化が困難となるからである。 K_2O または Na_2O は15モル％以下とする。これより多い場合は銀イオンの溶出量が增大するとともにガラス全体の溶解も速くなって長期間にわたる抗菌作用が維持できなくなるおそれがあるからである。 Al_2O_3 はモル％で2～6％の範囲のものとする。2％より少ないと溶解速度が速くなって長期間にわたる溶解性が期待できなくなり、6％より多いと銀イオンの溶出量が抑制されて十分な抗菌作用を発揮することができなくなるからである。 SiO_2 は10モル％以下とする。これより多い場合は P_2O_5 の網目構造が寸断されてガラスの溶出・溶解が速くなって長期間にわたる抗菌作用が維持できなくなるおそれがあるとともに、高温多湿時の吸湿固化も著しくなる傾向がある。 K_2O または Na_2O が15モル％以下と少量であるためガラスの熔融成形時において粘度を高く保つことができ、耐火物の侵食がなく優れた生産性を発揮できる。

20 【0008】前記の銀含有溶解性ガラスの表面にはシリコンオイルを被覆しておくこともでき、この場合には防水性を発揮して梅雨などの高温多湿時に吸湿固化する現象を避けることができる。このシリコンオイルは、溶解性ガラスの粉碎時に0.1～1重量％の範囲で添加することが好ましい。0.1重量％よりも少ないと十分な防水性を発揮することが困難となり、1重量％より多いとオイルによるベタツキが生じるおそれがあり、また銀イオンの溶出が抑制されるおそれが生じるからである。

30 【0009】なお、銀含有溶解性ガラスの砂場への散布は砂場の砂の粒度にできるだけ近い状態で行うことが好ましい。また、平均的な砂場の砂の粒度分布である840～2000 μm が約25％、300～840 μm が約50％、300 μm 以下が約25％の粒度分布としたものを砂に対して

約1%混合して均一に散布することが好ましい。

【0010】

【作用】以上のような銀含有溶解性ガラスの粒子を砂粒子中に分散させておけば、雨水や地中の水分との接触により溶解性ガラスから抗菌性のある銀イオンが溶出し、砂中の大腸菌等の雑菌の繁殖を防止したり、回虫卵を死滅させたりすることができる。このために砂場で遊ぶ幼児が砂を口に入れても、健康が損なわれるおそれがない。また銀イオンは人体に対して安全であるうえ、3年程度の長期間にわたりその効力を安全に維持することが*

できる。

【0011】

【実施例】表1に示す組成からなる P_2O_5 系溶解性ガラス100重量部中に、所定量の Ag_2O を添加したものを溶融し、ロールクラッシャーで粉碎したうえ更に丸味加工を施し、平均的な砂場の砂の粒度分布となるよう分級して銀含有溶解性ガラスの粒子を得、抗菌効果等につき調べた結果、表1に示すとおり優れた効果が確認できた。

【0012】

【表1】

		実施例1	実施例2	実施例3	実施例4
ガラス組成	P_2O_5 (mol%)	45	45	45	45
	CaO (%)	40	40	40	41
	K_2O (%)	5	5	5	10
	Na_2O (%)				
	Al_2O_3 (%)	5	5	5	4
		SiO_2 (%)	5	5	5
Ag ₂ O添加量 (wt%)		1	1	0.2	1
溶解性シリコン・エート (wt%)		良無	良有(0.2)	良無	良無
高湿下で保管Ag ⁺ の溶出量 (mg/g/Hr)		少し固化0.003	良0.003	少し固化0.0005	良0.002
抗菌効果 (%)		>99.99	>99.99	90	>99.99
効果の持続性 (%)		99.9	99.9	90	99.9
溶出液のpH		6.3	6.3	6.3	6.8

【0013】(試験方法)

(1) 高湿下で保管する試験は、得られた銀含有溶解性ガラスを温度35℃、湿度95%以上の条件下で3日間放置して観察した。

(2) Ag⁺の溶出量は、420～600μmの銀含有溶解性ガラスを20℃の純水に24時間浸漬して測定した。

(3) 抗菌効果は、銀含有溶解性ガラスを砂に1wt%混合したもの5gに、10⁶個/mlの大腸菌を含む1/50普通ブイオン0.5mlを混ぜ、25℃・24時間経過後の大腸菌の減少率を測定した。

(4) 効果の持続性は、銀含有溶解性ガラスを1wt%混合※

※した砂をJIS D2050 耐候性試験通則に従い600Hr 想定

の耐候促進後の抗菌効果(3年実施に相当)を測定した。

(5) 溶出液のpHは、Ag⁺溶出液のpH値を測定した。

一方、比較例として表2に示す組成からなる P_2O_5 系の銀含有溶解性ガラスの粒子を得て同様の試験を行った結果は表1のとおりであった。なお、比較例1の場合はガラス溶融時において耐火物の侵食が発生していることが確認できた。

【0014】

【表2】

		比較例 1	比較例 2	比較例 3	比較例 4
ガラス組成	P ₂ O ₅ (mol%)	50	40	45	55
	CaO ("	26	46	30	40
	K ₂ O ("			5	
	Na ₂ O ("	20	10		
	Al ₂ O ₃ ("	4	4	5	5
	SiO ₂ ("			15	
Ag ₂ O添加量 (wt%)		1	1	1	1
熔融性		水砕不可	失透	良	良
シリコン・コート (wt%)		—	—	有(0.5)	無
高温下で保管		—	—	固化	固化
Ag ⁺ の溶出量 (mg/g/Hr)		—	—	0.009	—
抗菌効果 (%)		—	—	>99.99	—
効果の持続性 (%)		—	—	0	—
溶出液のpH		—	—	5.6	4.5

【0015】

【発明の効果】以上の説明からも明らかなように、本発明は砂場内の大腸菌等の雑菌や回虫卵を減少させることができるとともにその効果を長期間にわたって維持することができ、しかも人体にも何ら影響を及ぼす危険性が*

*なく、更には生産性、保管性等にもすぐれたものである。よって本発明は従来の問題点を一掃した砂場用抗菌剤として、産業の発展に寄与するところは極めて大である。

フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁶A01N 59:16
59:00)

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所